

第24回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会が2008年11月28日・29日で開催され、母性病棟の福島千恵子助産師が

—産褥期に当院における母乳栄養確立に向けての現状報告—

を発表し、研究奨励賞「大森賞」を演題37の中から1題選ばれ、賞をいただきました。当院で助産師が賞をいただいたのは初めてです。母性病棟では、昨年5月からは産婦人科外来において母乳外来を開設しました。助産師の入院中および母乳外来における母乳栄養促進にむけての援助が認められました。



援助内容

入院中	<p>山内3.5か条に基づき援助を実施</p> <ul style="list-style-type: none">・母子分離期間は1日7回以上の乳頭刺激の実施の説明・母児同室可能となれば、直母(頻回授乳)の実施・夜間は疲労にて母児同室ができなくても、泣いてきたら、直母を実施
母乳外来	<ul style="list-style-type: none">・予約制(1人1時間 3人/日)・退院直前に、児の体重増加状況や母乳分泌・直母状況により、予約を決める。(問題がなければ1か月後)・児の体重増加および母乳分泌状態の観察・母親の育児上、身体上、様々な生活上の悩みを聞き、適切な指導の実施